

差引残額73万3480円
となります。

この平成26年度末における歳計現金や財産については、「東毛広域市町村圏振興整備組合の解散に伴う事務の継承に関する協議書」及び「東毛広域市町村圏振興整備組合の解散に伴う財産処分に関する協議書」により、歳計現金は太田市が継承し、財産も太田市に帰属するものとなります。

なお、林間学校については、今年度から太田市が直営で管理し、運営は当該組合を構成していた市町による任意協議会を組織し行っているもので、全員一致で認定されました。

補正予算

▽平成27年度館林市一般会計補正予算(第2号) Ⅱ

1億6165万5000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ273億2383万2000円とするもので、賛成多数で可決されました。

▽平成27年度館林市農業

集落排水事業特別会計補正予算(第1号) Ⅱ200万

円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ4977万2000円とするもので、全員一致で可決されました。

▽平成27年度館林市介護保険特別会計補正予算(第1号) Ⅱ1985万7000円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ58億2362万円とするもので、全員一致で可決されました。

報告

▽平成26年度健全化判断比率及び資金不足比率の

報告についてⅡ「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」において、財政の

早期健全化及び財政の再生並びに公営企業の経営の健全化を図るべき基準が設けられ、具体的な指標で

ある実質赤字比率及び連結実質赤字比率については、

実質収支及び連結実質収支が黒字であることから赤字

比率は4・3%、将来負担比率は91・2%であり、ま

た、公営企業会計における資金不足比率については、資金不足額が生じていないことから資金不足比率はなく、4つの全ての健全化判断比率及び公営企業会計における資金不足比率ともに、国の判断基準以下の数値となつているとの報告がありました。



平成26年度決算

▽平成26年度館林市歳入歳出決算の認定についてⅡ

一般会計決算の概要は、最終予算額291億9890万5000円に対し、歳入

決算額は291億2203万7493円で、予算に対する収入率は99・74%です。

また、歳出決算額は274億4894万3807円で、その執行率は94・01%となり、歳入歳出差引残

高は16億7309万3686円となります。このうち翌年度へ繰越すべき財源3億5352万4966円を差し引いた実質収支額は、13億1956万8720円となり、このうち10億円を財政調整基金に積み立てし、翌年度へ繰越すべき財源を含む6億7309万3686円を翌年度へ繰越しました。

017円。後期高齢者医療特別会計が、歳入7億9679万6775円、歳出7億4321万5525円で、いずれの特別会計も黒字決算となりました。

日本共産党館林市議団から反対討論が、緑水クラブから賛成討論が行われ、採決の結果、賛成多数で認定されました。

特別会計の決算は、国民

健康保険特別会計が、歳入88億1228万153円、

歳出87億4188万3428円。下水道事業特別会計

が、歳入20億9040万2172円、歳出19億869

4万9495円。農業集落排水事業特別会計が、歳入

4868万2457円、歳出4390万516円。介

護保険特別会計が、保険事業勘定において、歳入56億7342万7007円、歳

出55億8848万6976

▽平成26年度館林市水道事業会計未処分利益剰余金

の処分についてⅡ平成26年度の未処分利益剰余金につ

いては、前年度繰越利益剰余金659万9053円、

当年度純利益1億2476万1375円、建設改良積

立金1億円及び新会計基準移行に伴い発生したその他

未処分利益剰余金変動額10億3529万356円を合

わせ、12億6665万784円となり、そのうち、3000万円を減債積立金に、1億円を建設改良積立金に

それぞれ積み立て、11億3529万356円を組入資本金に組み入れ、残額の136万428円を翌年度繰